『交隣提醒』（韓国立国史編纂委員会所蔵本）《原典解読》—その４

呉　　滿

[まえがき]

雨森芳洲著『交隣提醒』（1728年、＜享保13＞）は著者が61歳の時、永年に亘る対朝鮮外交の体験を踏まえ、当時の対馬藩主宋義誠に献じた朝鮮外交の指針であり、氏の代表著作の一つとして知られている。現在、同書は「滋賀県高月町立観音の里歴史民俗史料博物館所蔵」（芳洲会所有）は重要文化財として指定されている。なお、同書には５種の異本が伝わるが、本稿は筆者が1997年８月、「韓国立国史編纂委員会（韓国果川市）を訪れ、当委員会のマイクロフイルムから撮影した『交隣提醒』を原典とする史料を完全解読したものである。

本稿に先立ち、既に本書の影印と現代語釈をそれぞれ『大阪経済法科大学論集』の第90号（2006年２月）と第92号（2007年２月）に発表した。今後は、他の写本との照合、比較を試図する予定であるが、既に公刊されている他の写本活字判『交隣提醒』（関西大学東西学術研究所資料集刊11－３）との異同を考察するのが次稿の課題である。

[キーワード]　：雨森芳洲・交隣提醒・1728＜享保13＞・対朝鮮外交指針・韓国国史編纂委員会所蔵本・原典解読

１．はじめに

本稿で扱う『交隣提醒（こうりんていせい）』は、1728年(享保13)、雨森芳洲が61歳の時に氏の長年に亘る対朝鮮外交の体験を踏まえ、当時の対馬藩主宗義誠（そうよしのぶ）に献じた朝鮮外交

の心得書で、格調高い内容を有する芳洲の代表著作の一つである。

筆者はこれまで『交隣提醒』について鋭意注目し雨森芳洲著『交隣提醒』について―その１（大阪経済法科大学論集．第90号＜2006年２月）、雨森芳洲著『交隣提醒』（韓国立国史編纂委員会所蔵本について―その２）＜同書第92号＜2007年２月＞、雨森芳洲著『交隣提醒』（現代語釈）―その３＜同書第94号＜2008年３月＞を論述した。本稿はこれらに続く論考である。本書の完全な原典解読は本稿が嚆矢であることを記しておく。

ところで、現在、伝えられている『交隣提醒』には５種の異本（①滋賀県高月町の「雨森芳洲文庫所蔵本」②「東京大学史料編纂所所蔵本」③対馬の旧厳原町の「中央公民館所蔵本」④韓国の「韓国国史編纂委員会所蔵本」⑤「韓国国立中央博物館所蔵本」）が伝わる。

まず、「高月町立観音の里歴史民俗資料館所蔵」（「芳洲会」所有）で、重要文化財に指定されている「雨森芳洲文庫所蔵本」の『交隣提醒』について考察しよう。

本書の体裁は、25.7cm×19.５cmで、76張紙の楮紙（こうぞし）、袋綴冊子装、堅張、紙綴四針眼で原表紙は茶地。外題、内題とも“交隣提醒”とある。奥書には、“享保十三年戊申年十二月二十日、雨森東五郎”と記され、原装見返しに“雨森顕允と鵬海が並書され直筆”とある。因みに、顕允は芳洲の長男であり、鵬海（1698～1739）は芳洲の二代目清元の雅号である。つまり顕允も鵬海も同一人物である。

先の「芳洲会」は昭和62年春、本史料を底本にして『交隣提醒・抜粋・現代語訳』を45頁の冊子にして刊行した。因みに本書は公刊されていない。同書の‘前書き’に、次のように記されている。参考のためにそのまま列挙してみよう。

○五十四段に分かれた本文中から十五段を選び、現代語文を添えました。

○芳洲書院よりお借りした芳洲直筆全文のコピーを更に50％縮小コピーしたものを上段に置きました。

○現代語文のテキストとしたのは原文を活字になおした「雨森芳洲全集三」関西大学東西学術研究所刊行です。（以下、略）

次に、韓国の「韓日関係史学会」から原典を現代韓国語で刊行された『訳注交隣提醒』（韓日関係史学会編、国学資料院刊、2001年２月初版発行）を見てみる。

本書の発刊辞（韓国語文）には概ね次のように記されている。

“まず、「韓日関係史学会」が1992年に設立されたこと、本書の刊行が韓日関係史分野の基礎研究に多くの寄与をなすであろうとの期待のもとに刊行されたこと、『交隣提醒』は書体と文体がとても難解で、まだ日本でも訳注本が未刊行であること、このような状況の中で、我が研究者の数年間に亘る情熱と労苦によって訳注本が刊行されるのは実に意義深いことだと言わざるをえない”（日本語訳は筆者）と、記述されている。

ところで、筆者（呉）は、韓国立国史編纂委員会所蔵本の『交隣提醒』を底本として原典の現代日本語訳に努めた。訳出の過程で、芳洲文庫所蔵本の『交隣提醒』とは内容的に見て、漢字表記、単語など、大小の相違があることが判明した。

ところで筆者が入手したマイクロフイルム撮影の『交隣提醒』の１頁には、「撮影指示書」とあり、1994年９月の日付で‘次ぎのごとくマイクロフイルム文書撮影を指示する’（韓国文）と国史編纂委員会資料管理室長宛の一文に始まり、撮影文書が「對馬島宗家文書」であること、使用カメラは、「富士Ｍ２」、使用フイルムは「35m/m」、撮影日時は、「1994.９」と明記され、次頁目の撮影目録には、図書名が『交隣提醒全』1728年（英祖４、享保13）17×23.5、と記載されている。

以上のことから、筆者が入手した同史料は筆者が同委員会を訪問した以前にマイクロフイルム撮影されていたこと、雨森芳洲文庫所蔵本『交隣提醒』が76張紙の楮紙、袋綴冊子装、堅張、紙綴四針眼、原表紙茶地、外題、内題とも交隣提醒、原装見返しに、雨森顕允と鵬海が並書され直筆と記録されており、体裁が25.7×19.5であるのに対して、韓国立国史編纂委員会所蔵本『交隣提醒』は、雨森芳洲文庫所蔵本『交隣提醒』とは明らかに相違する。それは、韓国立

国史編纂委員会所蔵本『交隣提醒』は四針眼61張の縦線罫紙12行の袋綴冊子装であること、奥書には、享保十三年戊申十二月廿日雨森東五郎撰、と記録され、各袋綴中央の下段には「菰涯堂」の三字が確認できることである。したがって、同所蔵本は、当時、「菰涯堂」なるところで作成された用紙を用いて記録されたことが分る。また、本書の最後の部分には、「交隣提醒」に続き「朝鮮風俗之事」（七張半）と「武器之事」（一張）と記載されて『交隣提醒』が終結するところから、記述の「雨森芳洲文庫所蔵本」、「中央公民館所蔵本」、および「韓国国立中央博物館所蔵本」とは異同があることが分る。

『交隣提醒』の書誌に関しては、現在伝わる５種の版本の異同の究明が今後の課題となる。そこで、次稿では既に公刊されている関西大学東西学術研究所資料集刊11－３所収の『芳洲外交関係資料書簡集』「交隣提醒」との異同を考察する予定である。

次に、本稿を閲覧、解読する際の留意点をいくつか上げておきたい。

① 現在、雨森芳洲著の『交隣提醒』の写本５種の中、いずれが原本であるかは目下、解明されていない。しかし、写本は原本を参考にしたはずである。伝本される過程で読みやすく理解しやすいように改定された形跡が見られる。

② 原典は筆写本、縦書きであるが、編集の便宜上、横書きとし、可能な限り正確を期した。

③ 原典は18世紀初の作成であること、著者独自の筆者本であることから筆跡に筆者の癖と特長が見られる。

④ 候文で書かれている上に、随所に漢文交じりの表現があること。ひらがな表記は草書体で書かれているほか、カタカナ交じりの混交である。

⑤ 略字が随所に見られ、当時の日本語文に相当に熟読していなければ解読は困難である。

⑥ 原典には各項目ごとに‘一’と記し、区分しているのみで、各項目の番号と題目が付されていない。そこで、理解を期すため内容上、54の項目に便宜上区分した。

⑦ 原典の解読で明らかな表記上の間違いが散見される個所があったが、その

ままとした。

⑧ 注釈は、雨森芳洲著『交隣提醒』（現代語釈）―その３＜大阪経済法科大学論集第94号、2008年３月＞にて附した。参照されたい。

⑨ 本稿で考察の原典は韓国立国史編纂委員会所蔵のマイクロフイルムからの映しのため、解読が不明な個所であるところは、●で処理した。

⑩ 随所に文字の大小が見られる（特に、助詞「ニ」）ので、小文字表記が明白な場合は意識して便宜上小文字表記とした。

⑪ 本稿中に随所「より」の略字体「ゟ」が見られる。これを作字して表記した。

２．交隣提醒（韓国国史編纂委員会所蔵本）《原典解読》

(一) 朝鮮交接之儀ハ第一人情時勢を知り候事肝要ニ而候。其ノ内筋ゝを分ヲ諸事了簡可致ニ事候。筋ゝ登申候ハ是者朝庭方乃了簡ニ預リ候事　是ハ東莱之了簡ニ出候事　是譯官共計ニ候事是ハ商人とも仕形ニ候事登夫々ニ分候而慮ヲ加ヘ宜ニ應之處置致候越筋ゝ越分登盤申候。堂登ヘハ御買米之儀またハ宴席之儀ハ両國誠信之上与り約條相究彼國相廷ニ知レ居申候事ニ候故御買米の快ク入來候哉否又盤宴席例式之通ニ有之候哉否之儀ハ朝廷方東來の了簡ニ預り候事ニ候。御商買之儀者、利分有之合方宜ク候得共、荷物越持来り合方不宜候得者荷物持來り不申専ラ商人之仕形ニ有之候事ニ候。然ル處御買米又ハ宴席等之儀ニ付、急度可申立事ニ候而も御商買爾指支可申哉と存候而扣之、若又商物持來候事不足ニ候可。満多盤、時節違ひ候得ハ東來ヘ申達シ何登そ御商買順便ニ成候様爾登存候類者筋分チ申さぬ不了簡二而候。以前義偽船之事有之候時、最初者厳ク被仰然候御了簡之様耳相見ヘ候處、御商買ニ支可申哉与裁判方より申來り候ニ付、其沙汰大榘爾之事ニ候得者、是盤商人ニ申事、是者町奉行ニ申候事、是盤御老中方江申入候事登申、差別自然登其ノ筋勘辨人々有之候事ニ候得共、朝鮮之事ニ成候得者やゝ登も以堂之候得者混雑候由ヘ其所ニ心越用ひ可申事ニ候。

（二）商買之事商人之数越定メ御國登貿易致候様ニ登朝廷方与り許し被置堂留ニ候由ヘ或盤商人之事尓付、申達訳有之候又者別開市越望候可　亦者人參ニ而く

らう越以堂之候類ハ朝廷より是又禁之被置堂留事に候由へ、姦曲無之様ニ登申達候類ハ格別之事ニ候。荷物越大分持來り候様ニ奈登ゝ下知を頼ミ候事者誠耳無益之事ニ候。彼方合方与路しく候へハ分明ニ刑罰を蒙り候事ニ候得登等も潜商之族耳今不断候ヲも川て見申候得ハ彼方合方不宜候得ハ如何程朝廷東來　被申付候而もり利益無之商買越可致様無之候故、商売之儀者朝廷東來之預り被申事ニ而無之候。古來之歴々之内商買ニ加り被居候与申咄も有之。公儀之荷物与申持來候事今登天も有之候由へ商買之儀者朝廷方東來之預り被申候事仁亭無之候登者被申間敷与申筋も可有之候。是亦混雑之所見ニ候間能々可有勘辨事ニ御座候。

（三）撤供撤市以堂之候得ハ對州之人ハ嬰児の乳を絶候ことくニ候与彼の国乃人常尓申事ニ而、此方ニいた手越阿天候第一之上策止存居申候。小川又三郎館守之時館内之もの銀奉（ウンボク）与申朝鮮人ヲ殺し中川ニ志川め置候越朝鮮人共右之死骸を取出し候段東來江相聞、若も其相手越日本人出し不申候ハゝ撤共撤市以堂し候様ニ登被申付候傳令、別差呉判事懐中致し居見セ申候。其節導差ゟ不申出候内ニ館内ヨリ右之科人之事申出候者有之。早速館守被召捕候由へ右之傳令越出し候而も不及候キ。此後登ても御國ゟ不埒成義被被仰掛候カ、又者不埒成被成方有之候ハゝ、成程御商買之支ニ成候事も可有之候得共、可被仰立事ヲ被仰置候時、無体ニ撤供撤市可致様無之候。日本人之儀者　御商買越性命の古とく第一切要ニ以堂之候と申事能ゝ存居候故、間耳ハ譯館共計策ニ而開市越志婦らせ候而●見せ候事若も有之候とも左様之節者前ニも申候登越り其筋越分チ、事之大小軽重越勘辨し、弥開市ニ相碍ル事ニ候哉否登申了簡肝要之事ニ候。

（四）御買米之儀朝廷ニ而ハ別事無之候得とも東來また盤訳官とも申合せ中間滞らせ候事毎々有之由ニ候。利ヲ貪り候事盤華（ミヤコ）も同然之事ニ而、廉明之役人常ニ可有之ニ而も無之ゆへ此所氣越付可申事ニ候。

（五）御買米ニ砂沙石もミを雑へ又者水越和し持來り候事、専釜山役人公作米西館米●●仕形与相聞候間、此後又左様之事候ハゝ、館内之役人共申合宴亨之節、右之米越俵奈から東來前江持出訴候様ニ致候義、第一之處置登存候得共館内ニ而米を請取候節斛（マル）之外爾升を加へ候義、來歴有之仕來事と者相見へ候得共、分明ニ其訳難知處有之故、東來之申分ニ加升有之候ゆへ、右之仕形ニ候段役目のものとも申候間、加升を相止メ候様ニ奈登と有之時、辨論ニ屈し可申哉との恐

有之候。依之右之義終ニ申達たる事無之候。斛升之義も大要者其筋相立斛一件記録ニ委細記し置候、此後加升之訳弥分明ニ成候ハヽ其筋者右之通東來江直訴致させ候仕形ニ可然候。

（六）送使ニ罷渡リ候者貿易の多女罷渡候事登相心得可申候。朝鮮之書ニ者商船登有之。送使之外別段之御用有之被指渡候ハ使者と申事ニ候。送使ニ罷渡候人、多クハ何事ニ付罷渡候登申事、曾而其心得無之偏ニ馳走ヲ請候多女罷渡り候登存居候族有之、氣之毒成事ニ候。公儀江前ヽ〆被仰上候ハ、両國誠信ヲ以年中ニ弐拾五船ツヽ被指渡候と被仰上置、商船登申事ハ終ニ被仰上無之候。之精キ御尋無之候ハヽ此方〆商船登申事は被仰上候ニ者及申間敷候。

（七）兼帯送使之儀者　御内証沼證之御約束ニ而公儀江知レ候事ニ而者無之候。志可之御尋有之候と起、彼方願ニ任セ幣を省き候多女、数十年兼帯ニ致來候被仰上侯ハヽ別事有之間敷候。御國漂船ヲ兼帯ニ奈ら連候も同然之心持候。担此等の事　義理ニ當リ堂類事ニ而も無之候由へ光明正大之人若シ上ニ御立被成候節者必者相改リ申候而可有之候。

（八）日本江唐人共商買ニ参り候而も糧米炭柴越給し馳走被成候事無之候所、貿易の多女罷渡リ候送使ヲ彼方〆馳走被致候訳者胡人之開市の多女中國ニ來リ候ハ遠人ヲ綏する登申候天駅馬ヲ越給し糧食ヲ具ら連候段、宋史ニも相見へ朝鮮ニも其例ニ準しら連たるニ而候。彼方ニ取候而者寛大之處置ニ而此方ニ登リ而者心ニ安しか堂起事ニ而候。

（九）彼地江被渡候人定リ多る日数の馳走をう希、日数の外ニ出候へ者乗をま天請取可申と致し侯。所ニ色ヽの用事ニ託シ日数の内ニ帰國以堂之候儀、甚以不聞之事ニ候。此儀者決而被指許間敷事ニ候。若不得己用事有之帰國致し侯者者、逗留之日数たけ馳走をう希、相残候分者辞退致し侯へ登急度可被仰付事ニ候。ヶ様之儀朝鮮者別段之事之様ニ相心得、歴々ニ而も日数の内ニ帰國可致と存候。族間ニハ有之。不義の名を残し御國之風儀悪敷候登朝鮮人存込候而者、上之御外聞不宜候と申所ニ心付無之候段百嘆之事ニ候。三十年者其幣相止ミ候得とも其以前迄は御家中扶助の多女登有之。被遣間敷別使ヲ被遣、毎度論談ニ及候事有之畢竟者上之御為不宜事ニ候。

（十）送使僉官猥ニ坂之下訳官之宅江参候義不宜事、弥可被禁事ニ候。

（十一）朝鮮爾相務候御役人　舘守裁判一代舘者勿論之事ニ候。其外ニ者隣交之義ニ付通使より切要成役人者無之候。人ニ寄候而者言語さへ能通し侯へハ相済登存侯へとも、聯以左様ニ而者無之侯。人柄も宜く才角有之義理越辨上之事ヲ大切耳存侯者ニ而無之侯而者誠之御用ニ立侯。通詞登者難申、必定害ニ者成候登も利益有之間敷候故、随分其人ヲ御撰被成候義肝要之御事ニ候。右通事之義至而切要奈留役人ニ侯と申訳一ゝニ者難申尽候。

（十二）通事取次致之節　訳官共登中間ニ而申合候事ヲ何事ヲ人ニより何事ヲ申候や、此方之申分越直爾彼方江達彼方申事越直ニ此方へ申候得者相濟候處ニ仕形難心得登不審越立侯人有之侯。是者通詞とも中間ニ申合而勿論不宜事茂可有之侯得共事ニ寄ニより甚宜事も有之侯由へ一概ニ疑可申事ニ而無之侯。ヶ様之義人情時勢ニ心越用ひ申侯人者自然ト相知レ申事ニ侯。既耳正徳信使之時　何日ニ御首途被成侯と被仰侯遣侯ヲ三使ニ者其日御出船被成候事と心得弥出船之覚悟ニ相聞侯ゆへ　其日者御首途被成而出舟者今暫ク間有之旨被仰遣侯得者、却而被仰分之様ニ被存是非出船可致登の事ニ而、裁判通詞を以之被仰諭侯而も承引無之前日ニ成り御用人被遣侯而も快き返答無之晩景ニ成上々官を以御屋處へ出船の義被申上。仁位孫右衛門取次ニ而、何登そ明日出船支度存登懇望向之口上ニ相聞候ゆへ、東五郎申候者、以前より之信使諸事殿様江御任被申候様子無之。此度之信使も先頃朝鮮出船之砌　護行之使者ニ構無之。殊爾信使屋之様子見申候所今早ゞ段々鍋釜迄船江乗セ候体ニ候得者、只今之口上中々懇望向之口上ニ而無之。是非明日致出船候間左様ニ御心得被成候様ニ登之口上ニ而可有之候。此方様ニ者懇望之口上之様ニ被思召、容易ニ御返答被成　明日ニ至り直ニ出船被致候様ニ有之候而者　御外聞残處無之事ニ候間、通詞を御呼被成三使ゞ之口上ま川すくニ申上候様ニ被仰付可然申、山城弥左衛門被成御呼候ニ付、東五郎弥左衛門江申候者、皆達事之敗レテ成不申候様ニと大切ニ被存取繕連候段、成程左様可有之事ニ候得とも、今日之義ハ大切之事ニ候間　上々官共申候口上趣ま川すく爾無遠慮被申上可然候と申候得者、左候ハゝ上々官申聞候三使より之口上、順も宜敷可然候旨船持共申候ニ付、明日弥致出船候間　殿様ニ者跡より御仕立次代御出船可被成と之趣ニ御座候登申候故、夫より驚入らせら連　御家中一統夜之内爾長壽院江相詰、翌早三使出館被致候ハゝ指留候様ニ登御被仰付堂留事ニ候。ヶ様之儀者

通詞之申分ヲ聞候而も了簡越可加事ニ候。右之外送使僉官朝鮮之事不案内之上ゟ當らさ類事越訳官へ被申候時、中間ニ而宜取汲ひ、また者訳官とも申分ニ送使僉官ゟ早速返答難成可有之と存候事者訳官方越おさへ置相應ニ送使僉官江申候而當座ヲ繕ひ候事も有之候。ヶ様之義ニ付候而も兎角通詞之儀者切要の役人ニ而候。

（十三）日本と朝鮮登者　諸事風儀違ひ趣好も夫ニ應し違ひ候ゆへ、左様之處ニ勘弁無之日本之風義ヲ以朝鮮人ニ交候事者　事ニより喰違候事多ク有之候。右何日ニ首途ニ被仰遣候事も日本爾者首途と乗船との違ひ有之候得とも朝鮮爾者首途登申事可有之様茂無之。殊ニ首途と三ち越者しむ類登書たる文字ニ候得者、文字之上ニ而も乗船之事登相見へ候所より右之食違ひ出来多流候。是故享保信使之節爾天御出船之日限を兼而被仰入、首途儀者不被仰入候。此外ニも日本ニ而宜キ登存候事越朝鮮人不宜登相心得、日本ニ而不宜と存候事　朝鮮人者宜登存候事限りも無之事ニ候ゆへ、朝鮮幹事之人者ヶ様之處ニ心ヲ用ひ可申事ニ候。朝鮮磐専中華を学ひ候風儀ニ而候故書物之上ニ而も得度唐之風儀ヲ致合点候得者、十ニ八九ツ迄者朝鮮之風義も推手知レ申事ニ候。兎角学問無之候而者此義も難成事ニ候。日本而天者歴々の輿夫寒氣ニも尻越具り、鎗持鋏箱持ハ假鬚ヲ塗り足拍子越取り候而、定而朝鮮人之心爾里川者奈留登存可申可登思ひ候へ者、朝鮮人之心爾盤尻越満具り候越無禮登見、假鬚を塗リ候盤異形奈流事登存、足拍子越取り候ハ労役を招キ候不調法成事登内々ニ而ハ笑候より外無之。亦朝鮮之心爾者其身とものの喪越務泣哭致し候体、日本人見申候而者感し可申と存候得者、けくは嘲り候様ニ有之候。此類ニ而日本朝鮮志尚之ある所越察し可申事ニ侯。此已然國王之庭ニ者何越種へ被置侯哉登尋候人有之。朴僉知返答ニ麦越種へ被置登申候得者扨ゝ下國ニ候登手打笑ひ堂留人有之候。定而草花の類少ニ而も不被種置候事者有之間鋪候得共、國王之御身爾も稼穡越御忘無之登申候て古来人之君之美徳ニ以堂し事ゆへ、定而日本人感し可存候与、右之古登く答候處　却而日本乃嘲り越受申候。諸事此心得可有之事ニ候。

（十四）日本朝鮮嗜好風儀違ひ候所ニ日本之嗜好風義ヲ以朝鮮人之事越察し侯而者了簡違ひ爾奈り可申侯。不調法成人盤　江戸向之公儀合ヲ以朝鮮を取捌キ可申者存侯人も有之。是者猶々笑止奈流事ニ侯。五日次（ヲイリ）雑物奈登請取侯爾日本向之如く味すくは津ミ爾天盤参り申さぬ事ニ侯登、利徳之方ニ者成程其心得人々有之

事候得共、禮義作法之事ニ成候而者　毎度日本之風義ヲ以朝鮮之事越處置致し可申与存候故、折々了簡違有之事ニ候。其外朝鮮人之み堂りニ言葉ニ阿らハし不申候越見申候与、朝鮮人者於路可奈留物登心得、朝鮮人之長袖爾天立廻り候越見申候而朝鮮人盤ぬる紀もの登心得、訳官共ハ中ニ立候役人爾而候故、毎度双方取繕候處より虚言越申候越見申候而、朝鮮人盤うそ越津紀申国登心得候類　以州連も不了簡堂留遍く候。朝鮮人猥り爾言越阿らハし不申候盤、前後越ふ満へ堂留智慮之深き耳天　愚奈候。其上古今の書傳爾も通し居申候故、下々登天も智慮乃深淺中々日本人之及申事ニ而者無之候。長袖ニ而立廻り日本人之古きりめきたる様ニハ見へ不申候へとも何事そ登申候得者　仕形存之外す留登奈留事ニ候。此以前歴々之内早舟ニ乗り押而多太浦江被参候越一夜之内　くさりを以船を中爾詰りあげ殊の外、難義被致候事も有之。其外信使之時、見申候ニ喇叭（シコライ）一吹爾天発足の觸を聞　二吹爾天揃、三吹ニ而出行被致候ニ一人後レ候もの無之。船乃乗下りとても同然ニ候故、七川立ち六川立ち登候得者彼方ニ者春古しも遅り候事無之候。日本人者髪越結ひ手洗をし股引脚絆越し刀脇差をさし印籠巾着越さけ可申と致候内ニ七ツ立者六ツ立ニ成り六ツ立者五ツ立ニ成候故、初者朝鮮人之方埒明兼可申候と、刻限前廣爾被仰合候方可然を有之候得共、其後者三使之方待可子ら連候様子ニ有之候ニ付、刻限を有体ニ被仰合候様ニ成候事　人々能存居候事ニ候。訳官共者中ニ立候もの ニ候ゆへ折々間違奈留越申候も是また自然之勢ニ候。日本登天も中ニ立候而事越扱候人者自然ト左様ニ有之もの ニ候。朝鮮國皆々うそ越徒起候様ニ有之候而者其国立可申様も無之事ニ而、うそ徒起候人も有之候て末世乃習らひニ而、以川連乃国爾も免く可た紀悪俗ニ候得共、挙國皆ゝうそつ起可申様者無之事ニ候ゆへ勘弁可有之事ニ候。此前銘々之國風宜し紀登存候者　華夷目前之事ニ候得とも朝鮮人者日本人登言葉之上ニ而相争不申様ニ致し候越主意と立居候ゆへ、毎度其国之事越謙遜致候處ニ日本人者却而我國之事ヲ常ニ自慢のミ以堂し、酒の一事ニ而も日本之酒者三國一ニ候得ハ皆達も左よふ爾可被存と本古り候得者、朝鮮人之返答ニ成程左様ニ存候と申候得者弥其通り之事登相心得了簡も無之人ニ候と内心爾盤嘲り候所ニ心付無之候。日本之酒を三國一ニ候と朝鮮人存候事ニ候ハゝ、皆とも聚會之節日本酒古そ才覚以堂し絶可申處ニ左無之候ハ日本人之口合ニ者日本酒宜敷、朝鮮人口合ニ者朝鮮酒宜し具唐人の口合ニ者唐酒

よ路し具、紅毛夷乃口合ニは阿剌吉珍陀宜侯段、自然の道理爾天侯。此己前訳官共参會之節あり体越申様ニ登相尋侯所ニ我々者絶津希居申侯ゆへよろしく登存侯登申も有之。又日本酒宜侯得共　胸ニ津かへ、多た遍侯ニ者　朝鮮酒宜侯と申も有之侯。

御国上戸登申内ニ京酒を好ミ不申却而御國薄濁りを好ミ侯。同然之心持ニ侯。左侯得者此方ニ宜存侯とて彼國も宜敷存しニ而可有之心得可申事ニ而無之侯。是者微事ニ而何之用ニ立申さぬ事ニ侯得とも、ヶ様之事ニ付日本朝鮮嗜好風儀之不同之事越察侯一筋与存書付置申侯。且又日本ニ提灯蝋燭有之。夜行ニ者是より外便利奈留事無之侯を朝鮮とも館内之提灯を借り侯事ハ致し侯へハ某国ニ而拵へ侯事ハ無之侯を、見申侯天、分明爾宜しく与存侯事越学ひ不申侯者鈍キ風義ニ侯与存侯事有之侯。朝鮮之船之古登く日本船を拵侯天汎檣乃費も無之。帆乃とりさ者紀も心やすく船の上も穏ニ開キ走リも快く可致事ニ侯得共、曾天学ひ可申与致し侯人も無之。新羅之船宜侯ニ付是越借り米越者古者せら連候与申事三代實録ニ相見侯。異国乃船越借り我國之米越運ひた類登申事お可し紀事ニ侯へとも、豪傑明智之人ニ而無之侯得者、其国乃故習（シナレ）越変し侯事与古今とも難成事と相見江侯故　彼国者可り可申事ニ而無之侯。其内提灯之有無者軽キ事ニ而船盤性命之安危ニ預侯もの ニ侯へハ、他国登よ紀事を学ひ不申儀鈍キニ極り侯ハゝ、同ク鈍キ内ニも日本者別し天大奈留鈍キ耳而可有之侯。御国之義者他國登違ひ申候ゆへ日本船朝鮮船作り様之違ニ而信使被召連候節指支侯事有之侯ニ付船之形異形成よふ爾有之侯而も朝鮮船之心持ニ船ヲ御作らせ被成度思召侯与公儀江被仰上侯天、無用ニ仕侯へとハ被仰出間敷侯へハ五年も七年もまへ朝鮮船の通り爾小船越御造らせ被成試致し見侯様ニ御船頭中江被仰付、弥宜キ耳相極り侯時、公儀江被仰上御召船を始メ朝鮮船乃如くニ成侯事成申満し紀毛の爾天も無之侯。上廻り之儀ハ早船ニ相類侯様ニ被成侯ハハ甚異形奈留やふ爾も見へ申間敷。朝鮮船乃通り侯得者　乗能侯止此以前後船頭内ニ申さ留人も有之。殊ニ朝鮮船者各別慥ニ侯止申人、外ニも間爾者有之侯ゆへ無用之事奈可ら書付置侯。併五年も七年も御試有之たる以後奈ら天者容易ニ御究被成かた紀事ニ而、殊ニ只今ハ日本船朝鮮船其形ヲ甚違ひ候へとも檣を貳ツ立朝鮮船ニ類侯様ニ成侯ハゝ、潜商之防ニ者不宜事可有之侯ゆへ容易ニハ難成事耳御座侯。

（十五）信使之時　公儀御代官之事書付　朝鮮方へ遣侯時、韓僉知申侯ハ　代官止有之侯而者　甚軽く相聞へ侯間　外之官名書替侯様ニ登申侯。是者館内ニ而代官登申侯者軽キ役人ニ侯故　如此申多留ニ而侯。夫故御代官衆御預り之場所越被聞合、何之郡守登書付被遣侯諸事ニ此心得可有之事ニ侯。

（十六）御家老中六位之官服被着侯事正徳年ニ始リ候。此義其訳有之侯而之事ニ侯ゆへ此後不相替侯様有之度之事ニ侯。

（十七）天和信使之時先例ニ任セ岡崎之御使番を被遣侯所、何之官ニ御成登三使被相尋侯處、日本ニ而者宰相侍従諸大夫奈登申侯而　禁裏ゟ被仰付侯を官登心得居候のミニ而、唐朝鮮ニ而官登申ハ元来今之役登申事ニ侯止申心得無之候故、無官之人ニ侯登通詞とも答侯ニ付、公儀乃禄越食ミ御使ヲ務侯人越無官奈留登申侯ハ不思議成奈留事ニ侯と三使殊の外うたかひ被申多留由ニ侯。そ連ゆへ正徳享保之信使ニハ若官越被相尋侯天　其役儀ヲ以答侯様ニ止通詞共江被仰付侯。信使之時　計ニ而も無之　御國之人送使僉官ニ渡り侯時、　必ハ御國ニ而何之官ニ侯哉登相尋侯事有之侯。左様之節者役義相勤侯人ニ侯ハヽ其役ヲも川天答へ御番へ通り勤メ居侯人ニ侯ハヽ、宿衛の官侯と答申候様ニ通詞共江可被仰付事ニ侯。士以上之務侯越官登申、士以下之勤を役登申、其分ニ昔ハ日本も分明ニ有之侯處、部家之支配ニ成り侯より官登可申人をも役登唱へ侯様ニ成り多留事ニ侯。

（十八）重而信使之節　第一氣毒ニ侯者　鷹之事ニ侯。委細ハ享保信使之御記録ニ記し有之侯。訳官共中間ニ而以堂し侯段、分明ニ相知レ居申事ニ侯へハ、侯。有體ニ被仰上可然筋有之侯ハヽ無其上事之左無之侯。御取繕ふ御成候而不叶事ニ侯ハヽ、鷹之義生キ物之事ニ侯へ者勿論餘慶をも持來侯へ共長途之うちおち申候か、又ハ病鷹ニ成り侯て者如何侯ゆへ此度鷹ハ指出可申侯得とも、別幅ニハ書載不仕筈ニ侯間　左様ニ御聞置可被下侯与、兼而御老中江御届被成鷹さへ指出候様ニ被成侯ハヽ、是非千規之通別規之通別幅ニ書載侯様ニとも有之間敷侯哉。鷹被指出候様ニ被成侯。其時如何様ニも處置有之事ニ侯故、唯今書載致し置侯ニ不及侯。

（十九）正徳享保之両度之信使者朝鮮人登重キ論談有之侯時、佐役之人必ハ御相談ニ相加り始終を能存知居申候故、其後記録御仕立被成侯之節朝鮮人登論談有之侯重キ事之分者佐役之人より書付指上ヶ御記録ニ被書入侯。天和之記録ハ

日本向使者往来所ゝ馳走之事者記有之候へとも、朝鮮人者御論談有之候重キ事者、西丸ニ而徳松君へ被致拜禮候ニ付違却有之候此儀ヲ始メ一事も記無之候。ヶ様ニ候而者　渡来信使方之御用耳相立候記録ニ而者無之候。重而信使之節者重キ御論談之御相談ニ預り候人ニ書手貳人ニ而も三人ニ而も被成御添朝鮮人与論談有之候事の分者早速く爾書付置、重而御記録之内被書入候様ニ可被成事ニ候。書札方江被仰付候而者　第一ハ日本向之書留置候事大分ニ有之。其上御相談座席江罷出申ニ而も無之。信使奉行ゟ度事ニ可被仰聞と思召候而も、是又御用御繁多之内ニ中ゝ御手登ゝ起申事ニ而之候ゆへ、毎度御相談ニ相加り候人へ書手被相添、微細ニ書付置様ニ被仰付候義切要之事ニ御座候。

（二十）天和信使帰國之節　今度公儀ゟ御馳走丁寧ニ被仰付　難有仕合ニ被存候与之趣　三使ゟ書簡ヲ以殿様江宛可被申越候。佐候ハゝ公儀江可被指上との義ニ天上々官ヲ以被仰掛候處、其書簡致出来御記録ニ載り居申候。右書簡之文体ヲ見申候ニ三使之筆力とも見へか多く、文意全く日本風儀ニ相見へ申候。惣体日本ニ而も國使者ニ罷越、彼方丁寧ニ被致候時、罷帰り主人より禮を申遣候事者有之候得とも、使者之身登し天我身ニ當りた留事の様ニ禮越可申述よふ無之。増而唐、朝鮮ニ者尚ゝ有之間敷事ニ候ゆへ不害ニ存居候へとも、先例之事ニ候ゆへ正徳年ニ も右之通上々官ヲ以先例如此候段被仰達候處三使帰國之後科ニ逢被申候ゆへ、今ニ而者書通致しかたく候与申、終ニ埒明不申。享保年ニ至り又ゝ右之通ニ被仰掛へとも三使不害爾被存候由、訳官共申候ニ付、天和年吟味被仰付候處、図書も違ひ疑敷相見へ候。天和之時分迄者　訳官とも之風義、兎角日本人之心越さ可ひ不申様ニ以堂し候義第一ト心得居申候時分ニ而、朴同知奈登ゝ申もの日本之事情も能知り居申候者ニ候ゆへ、此義書簡ニおよひ申事ニ而、無之候与一旦申見候へとも此方其聞入無之候ニ付、中間ニ而拵、三使之書簡登号し指出候偽作与相見へ候。此訳譯官共ハ聞傳へも有之、推量も可有之候ゆへ、正徳享保とも耳此方ゟ被仰掛候時、三使江申達候登者申候得とも、実者三使江者其沙汰曾而不仕ニ而可有之と存候。ヶ様之儀　江戸向之津屋を思召候而不當事越被仰掛候段、元来不宜事ニ御座候。

（二十一）天和信使之時、御國漂流兼帯ニ極リ候節、破船殞命ニ者使者可被指渡候登真文を以被仰達置候處、其後秋山折右衛門被指渡候時ヲ始メ、違却致し此

方ゟ者約條之通ニ被成候与有之。彼方ゟ者約條ニ違ひ候登有之。就夫訳官とも色々と辨を立申満ぎら可し快埒明不申候ニ付、兼ゝ不審ニ存侯へハ右之真文訳官とも中間ニ而留置朝廷方江指出不申ニ而者無之候哉。朝廷方より右御國漂流之事兼帯ニ済來侯様ニとの命を蒙り全ク其通りニ相済來侯者帰朝之節申候へハ、其身とも功も相立様子宜候處、破船殞命ニ者使者相渡申筈ニ済來り候登申候而者首尾如何敷處有之候ニ付、破せん殞命毎度有之事ニ而も無之若も有之候ハゝ其節如何様とも成可申者存、右之真文指控置堂留事有之間敷とも難申者存居候處、享保信使江戸表ニ而右破船殞命ニ者使者可指渡との約速有之候段被仰聞候へ者左候ハゝ其書付見申度と申被候ニ付書付被遣ら候。天和年弥訳官共ゟ指出し堂留事ニ候ハゝ右之書付彼方ニ有之筈ニ候ゆへ見申度とハ被申間敷事ニ候所、如此被申候者　天和年ニ弥指出不申哉与、猶々不審ニ存候所、近来彼方之書物越身候へハ壬戌信使之時　漂船之泊ニ於馬島一者順ニ附九送使以来事更為二約條一登書付有之。破船殞命与申事者書載無之候へハ、慥ニ天和年右之真文を中間ニ留置不指出候段　分明相知レ堂留事ニ候。享保信使鷹之事ニ付東五郎韓僉知江申候者、此度者、ヶ様ニ取繕済被置候得とも重而信使有之候節　必違却ニ可及候。其節如何可致登被存候事ニ候哉与申候者其時迄我ホ生居申物ニ而も無之候ゆへ、其節者兎も角も成可申与何之気遣成様子も無之返答ニ而候。天和信使之時之訳官とも韓僉知同然之心入耳天有之堂留登被存候。ヶ様之義も有之候ゆへ此方爾者慥ニ約速相済居候事と覚へ居候事ニ而も、若者訳官とも中間ニ而致し堂留事ニ而ハ無之哉。左候而者　押而及議論却而事之敗ルを招キ候事も可有之候哉与毎度阿や婦ミ申事多ク候故前後を勘弁し諸事卒爾奈らさぬ様耳可有之事ニ候。天和年御國漂流兼帯ニ成リ候事者此儀宜御済シ被成候ハゝ、狐皮狸之皮之直段上り候様ニ相働可申与、上々官之内ゟ裁判指置他之筋ヲ以慥ニ申堂留もの有之。其通被相極候事ニ候處、其後狐皮狸皮之直段者終耳かわ留事無之候。是又為後日覚居可申事ニ候。

（二十二）正徳年爾者所々ゟ出候人馬とも ニ餘計有之。指得候事無之。天和年も其通りニ有之堂留よしニ候所、享保年爾者請負ニ成候ゆへ甚指支日本之御外聞不宜候。重而信使之節者　天和正徳之例ニ被仰付候様ニ兼而公儀江可被仰上事ニ候。

（二十三）日本船登朝鮮船登違有之日本船出シかたき日和盤も朝鮮船者慥ニ乗被候事罷成候ゆへ此方ゟ出船難成日和ニ候登被仰聞候而も、彼方之船将者成程出

船成安キ日和ニ候登申ニ付、毎度違却有之事ニ候ゆへ、兼々日本船朝鮮船違候訳前廣ニ被仰諭置度事ニ候。其上、殿様御旅行船中道中ニ被成候逗留候程、公儀より之御宛行有之御為ニ成候与彼方書物ニ記シ有之由、正徳之訳官享保之訳官何連茂申候。ヶ様之儀ニ付候而も出船成申日和ニ候へとも熊与御逗留被成候与之疑心有之候間其心得可被成●事ニ候。

（二十四）惣体三使之心入以川登天も御國ゟ仰制ヲ（ヲシツクル）う希申間敷との我意有之ゟ様耳相見へ申候。曾而抑制ニ而者無之日本と朝鮮登者風儀の違ひ有之、朝セん乃思召ニ而者日本向ニ合不申、何登そ両國間宜處様ニ思召候所より被仰入事ニ候。古人之言葉爾も使従レ俗禮従レ宜登申候而朝鮮乃国体ニ阿川可り候儀者格別ニ候。其外申入候趣を得度被聞通候様ニと御丁寧ニ可被仰入事ニ候。

（二十五）信使之時、行中之書物越被禁候事、天和之年ニ始り天和御記録ニ委細相見へ居申候。元来此方ゟ被仰上候ニ付　公儀より被仰出堂留事ニ候。筆談も猥り ニ致し候もの若者国事越洩シ可申哉との恐有之事ニ候ゆへ、是者被禁候段其訳有之事ニ候へとも、書物を被禁候事者訳立た起事ニ而迚も御指図ヲ守り申さぬ事ニ候間、御禁制被成候事重而者御無用ニ被成可然候。且又信使之節、書物之御頼ミ有之候て額字ニ而候ハヽ二三枚一枚唐紙爾書候事候ハヽ二枚カ六枚屏風用ニ成り候外者相成申間敷候。其分通詞頭江可申時登候間、彼方江紙ヲ被遣御書セ可被成候与被仰聞、御家老中ニ者書物之事ニ御構ふ不成候様ニ有之度事候。書物之事ニ而御詰問もせひヽヽと有之。殊ニ享保年ニ亀井隠岐守様ゟ者長持一竿耳裏ゟ打致シ候唐紙ヲ入被遣候而、書物御届被成候ゆへ、道中船中御国迄段々御書セ被成候得とも全く濟兼申程ニ御座候。定而御家中之銘々望候分も其内ニ入申候ゆへ、如右大分ニ成堂留事登存候。何之益も無之事ニ御老中ニも臨時之御セ話被成。并ニ役人中之手ヲ塞候段甚以如何敷事ニ御座候。

（二十六）詩文章者真文役之外　取次無用ニ仕候様ニ堅可被仰時事ニ候。外ゟ取次候而者不宜訳数多有之候。

（二十七）重而信使ニ者大佛ニ被立寄候事、兼而朝鮮被仰通座御無用ニ被成可然候。其訳者委細享保信使御記録ニ相見へ候。明暦年日光江参詣仕候様被仰出候者御廟制之華美を被成御見セとの事ニ相聞候。大佛江被寄候様ニとの事も一ツ者日本珍敷大佛有之登申事越御知らせ被成可。一とつハ耳塚越御見セ被成、日本

之武威を顕ハさ留遍起与之事与相聞へ候へとも、何之瓢逸奈留御所見爾候。廟制者節倹を主人与致し候ゆへ其楹ニ丹越ぬり其桶ヲ刻ミ候事、春秋ニそしら連候へハ、御廟成之華美朝鮮人感心可致様無之。佛之功徳者大小耳よ留満しく見候処有用之財を費し無用の大佛を被作候事是又嘲り候一端にて、耳塚登ても豊臣家無名之師越起し、両國数無之人民越殺害セら連堂留事ニ候へハ、其暴悪越重而可申出事ニ而何も華輝の資ニハ成り不申。却而我國の無学無義越顕し候のミニ而御座候。享保年爾も其例ヲ以之朝鮮人之見申さぬ様ニ被成候。是者誠耳聖徳の事多留遍く候。此段も兼而新井筑後守様江御内意被仰上御聞通有之、かこわ連候様ニ成多留事ニ候。右之次第ニ候ゆへ重而之信使ニハ京都乃止宿并大佛江被立寄候事御やめ被成可然事ニ候。若も長途之始ニ候ゆへ以前より京都爾天休息被仰付川船より直ニ旅行登申事　如何哉与訳古連何ヲ候て幸湖水者日本乃絶景ニ天候得者其所ニ致止宿候儀　一行之者も悦申事ニ候間成申事ニ爾天高観音越信使屋ニ被成、大津ニ両日程被致休息候様ニ被成可然候。享保年京都を昼休と公儀ゟ被仰出、兼而朝鮮江被仰遣置多る事ニ候所、三使病氣登号し京都ニ致逗留候者、右昼休与申事、訳官とも都表江ハ不申達事之様耳相見へ候。

（二十八）天和年日本道中乃列樹何連も古木ニ而枝葉越検シ候体無之候を見被申候而、法令の厳粛奈留ゆへニ候与三使殊乃外感心被致候よしニ候。日光大佛ヲ以何譁耀可被成与思召候而もそ連爾者感心も無之、却而日本人の心付申さぬ列樹ニ感心有之候ニ而、日本朝鮮志向乃在ル所を可知事ニ候。正徳年爾者乞食を悉ク被除候而宜候所、享保年爾者盲人比丘尼まて徘徊し、見苦敷事ニ候。是又重而之信使ニ者兼而公儀江可被仰上事ニ候。

（二十九）享保年信使ニ相附候護衛之軍官者騎馬ニ而無之候而者如何ニ候へとも、其外之上官とも盤駕籠ニ被仰付候ハヽ其身共為爾も宜、日本諸大名之費をも省キ候事ニ候ゆへ、訳官とも江被申談相頼候事ニ候ハヽ公儀江可被仰上侯間　可被申越候。志かし慥ニ成り可申哉否之儀者不相知事ニ候間、究而者　被申間敷と裁判方江被仰遣候所　裁判被致失念訳官共江不申聞候内ニ最早國々江被仰付候馬割相濟候。延引セしめ候ゆへ其沙汰爾及不申候。重而者何とそ護衛之外者　駕籠ニ成候様有之度事ニ候。享保年書記とも乗り候筈之駕籠軍官共之内、書記ヲ押の希乗候族まヽ有之候。重而信使ニ者軍官とも駕籠ニ乗り候先規有之候登申必者駕籠ヲ

乞候事奈登可有之哉止存事ニ候。

（三十）訳官共之儀者格別恩賜を厚く被成、御国之御蔭爾天無之候而者其身立不申候与存候様ニ被成可被下置事ニ候。公儀向ヲ思召候へ者、御老中方之御用人ニ者　別段之御手入越被成候同然之心持ニ御座候而、訳官とも御國ヲおろそか爾存候よふ爾被成候而者甚御為ニ成り申間し具候。其内常例ニ成り不申候様ニ御處置肝要候。参判使渡海之節木綿被下候儀　最初者不時之恩賜ニ候處、只今ニ而者常例之様ニ罷成候。ヶ様ニ候而者如何處奉存事く古館之時、此方ゟ被仰掛候事有之。久ゝ埒明不申候ニ付　訳官之内李判事と申もの日本人江致内通候者、拙子事越東來前耳天散々ニ御叱り其上ニ打擲可被成候。左候ハゝ此事相濟可申与申ゆへ其通ニ致し候所、果而其事埒明たる登申事ニ候。訳官之身堂し天ヶ様之事何申　様無之儀ニ候へとも、其節までは乱後之徐威爾而日本人諸事暴戻ナル仕方ニ恐候。心つよく候而よしハ其身辱越被候而成りとも此事越早やく埒明、一時之苦難を免連申度存候一と川。且又其砌迄者御商賣之次第も此方共ニ今登者違候而、日本人之多め相働候得者其身乃勝手ニ成り候所有之候ゆへ、利得ニ目を掛ヶ候心も有之。威脅利（ヲヒヤカシ）ニ誘候此両端ニ而右之内通を以堂し堂留ニ而候。此外耳も是爾類シ堂留事、其節迄者いか程も有之。李判事一人のミにて者無之候。今爾成候而者余威も無之、又相働候とて別而益ヲ得申事も無之候へ者、判事中の心入　昔耳者殊の外違ひ申筈ニ候ゆへ、恩賜之所爾別而可被添御心事ニ候。殊ニ御商方ニ而商人越親ミ訳官越疎シ候様ニ奈と有之候て　御隣交之御用向ニ必指支可致出来候ゆへ了簡可有之事ニ御座候。近来誰ニ而も候哉。小作人之内　昔乃仕形越聞傳へ居、宜東來前ニ而訳官之鬚越取申候へハ訳官とも却而致憤怒其事弥埒明兼申候。是者俗説ニ申候古流當留乃差別無之と申類ニ而、事情、時勢越分チ申さぬ可為不了簡候。

（三十一）御時勢不宜候付　御送使御屋堂ひ被成候事　最早両度有之候。此後又左様之事有之間敷とも難申候。御所務御庫入ニ成り候儀　御多め之様ニ相見へ候へ得共、元来御家来へ他國ゟ致馳走候食物ヲ上江被召上候と申事　義理ニ當り可申様無之、其上異國人之存入も不宜候。勿論御家来之難儀者無限事爾て當時ハ御為登相見へ爾而も、落着者御多め爾不罷成候登申所ニ心付無之候段、慨嘆し極ニ候間、若も左様之沙汰申上候人有之候ハゝ上より叱責可被成事ニ候。

（三十二）古館時分迄者　朝鮮乱後之餘威有之候ゆへ朝鮮人ヲ無理ヲ以押付置、訳官共其身難義之餘り中間ニ而都之首尾宜ク取繕ひ、難成事も成候様ニ致し候ゆへ、以ニ強狼ニ取レり勝ヲ候越、朝鮮越制御春類の上策登人々心得居候。新館ニ成候天餘威も段々薄く成り無體ニ勝越取候事難成勢ニ成候へとも威之うすく成堂留登申所ニ心付無之、此方仕形之不宜ゆへ登のミ人々存居、竹島一件まて威力恐喝を以勝を可取との趣ニ候へとも、七年越経之、其事成申さぬのミ奈ら須、却而御外聞ニ防有之様ニ罷成候ゆへ、三十年來者右之風相止ミ唯今ニ而者先結構成事ニ候。志かし朝鮮人の才智者日本人之及所ニ阿ら須候へハ、此後御處置不宜候ハハ、世話ニ申候。何某乃木刀と申様ニ阿ちらこちらニ成可申恐有之候ゆへ、其所ニ心ヲ付可用事ニ候。四、五十年まて者、日本人刀越抜候へハ朝鮮人恐懼逃奔以堂之候所　最早十四、五年ニも成り可申哉、炭薪取ニ参候志たけとも越軍官之内一人刀越ぬき追散し候もの有之候、履レ霜ヲ堅氷ニ至ルと申ハヶ様之事ニ候ゆへ有智之人者渡来越慮り可申事ニ候。

（三十三）古来朝鮮之書物ニ敵国登有之候越敵国登者對體之國ニ候与申字義ニ候此段其心得無之。ヶ様ニ御誠信ヲ以隣交越被結候へとも、朝鮮爾者耳今旧怨ヲ忘レ不被申日本越か多起登被書候与相心得、又御國ゟ朝鮮の為海賊を被防候と申事越書述候とて、對州者朝鮮乃藩屏登成候と此方之書物爾書付　藩屏登申言葉者家来之主人爾對し申言葉爾候処ニ心付無之候人有之候。ヶ様之事、我ら或粗字之人爾者今以其幣難免事ニ候。文学越得与讀分ヶ不申候而者、了簡も夫ニ應し申事ニ候者、兎角御國之儀　他國と者甚違ひ候事爾て、學問才力乃勝連候人ヲ御持不被成候而者、如何程上ニ心越御尽し被成候而も御隣交之筋難立可有之登存候。學力有之人越　御取立被成候義切要之御事ニ御座侯。

（三十四）館中江入申候炭薪、年中之数越積り立其分米ニ而入候様ニ致し可然登訳官とも内ゝニ而町人共江申談　右之町人其旨申上侯処、館中津かひ用之薪者毎度水夫ともニきらせて被指渡候處、是者御為宜キ事ニ候と申人も有之候得とも相定り堂留年條乃御賣米さへ未収ニ致し候。朝鮮人ニ候へハ炭薪之代り耳入來候米別条有之間敷とも難申、其上年條御賣米之内ヲ以炭薪之代り登号し入來様候ニ有之候而者、異竟不宜事ニ候との儀ニ而右之沙汰止候。此儀朝鮮人方より少しも無如才代り之米越入來候ニ致し候而も甚不宜事ニ候。其訳者館中ニ而館守裁

判送使僉官御横目不時之御使者ヲ始メ、只今迄者炭薪を快ク遣ひ其餘リハ留館之者共江も及候程ニ有之候所ニ、上ゟ何程ツヽ登御極メ被成、炭薪被相渡候時、定而精ク其法相立可申候ゆへ、以書付申候時者成程きこへたる様ニ可有之候へとも、被取行候時朝鮮在館之人難義限も奈起事ニ而可有之候。其上年中渡り侯炭薪之数大分之事ニ候へ者、両御関所之改茂手之届キ申事ニ而無之、此外爾も不了簡登申候而もヶ様之了簡者また有之間敷候。此儀も眼前之御多め登申所ニのミ心付候而、水ヽ御為不宜と申所ニ思慮届キ不申候ゆへニ候。惣體朝鮮乃事者唯今まてより宜利益之事者有之間敷哉与致思慮候ハ、皆ヽ不宜候。何登そ唯今迄之通無別条相續候様ニ登可存事ニ御座侯。

（三十五）深見弾右衛門館守之時、朝鮮之女三人館内耳かこひ置候段相知レ、東來ゟ催促有之候ニ付、不得己竊ニ館出シ候時、館外ニ而捕へ、拷問之上、斬罪ニ行ひ、其相手越被出候様ニ登名指し致し督責厳急ニ候所、館司ゟ色々と申者津し、其内ニ年月も立候而終ニ相手不被指出、事相濟申候。其節、右館守之仕形を宜キ處置ニ候登國中ニ而申たる事ニ候。宝永五子年、崔同知渡海訳官ニ被渡候御時、白水源七登申もの致、交奸候而、刑法ニ可被行との義　禮曹ゟ之書簡持渡申上侯所、己ニ弾右衛門時之訳も有之事ニ候間、訳官共越或ハ志かり或ハさとし、無何事相濟候様ニ被成可然と申筋多く有之候へとも、御評議被成候ハ兼而御聞被成候所、朝鮮ゟ御國を怨ミ被居候事数ヶ条有之。其内ニ第一交奸之相手御出し不成候事、第二者新館造営の事ニ候、重而信使有之候節、江戸表ニ而直訴被致可然と議論相極居候ゆへ、若も西方之人三使ニ被罷渡候ハヽ、御國之御難儀可被成候と朴僉知申たるよしニ候。左無之候而も、義理ヲ以申候時、御隣交之間彼國ニ而深く被禁候事ハ、此方之ものニも其法越犯シ不申様ニ登可被仰不申様ニ登可被仰付事ニ而、上之仰ヲ守り不申、其法を犯し候者盤、彼國同罪ニ不被行候共相當ト之刑罰無之候而不叶筈之事ニ候ゆへ、右源七義彼國江指渡、對決之上、其罪分明ニ候ハヽ、永ヽ流罪ニ可被仰付と之旨、書付ヲ以訳官江被仰渡、書簡ハ御請取不被成方可然候と、御評義相極り其通りニ被成候所、源七儀故有之、對決ハ無之候部とも帰國之後一門中より田舎被下し候様ニ登仰付候。其後正徳年、三使被相渡御同行被成候ニ付、若ハ交奸之事被申出事も可有之哉との儀ニ而、交奸之記録をも御持せ被成候様ニ江戸表辞見之節ニ成り候時、右交奸之儀果而被申出、

此義弥同罪ニ可被行との御返答無之候ハヽ、辞見ニも不被出、公儀江直訴可被との事、上々官を以被申候得とも、兼而その處置被成被置候事ニ而、公儀江も内意被仰上置候事ニ候ゆへ、御返答被成候ハ、右交奸之科人、先年崔同知江書付ヲ以申渡候通永々流罪ニハ可申付候。同罪ニ何申付との御返答ハ不被成候。此義公儀江直訴被成候而も同罪とは不被仰出事ニ而、日本国大慶ニ御渡り候三使、ヶ様之微事交儀江及御直訴候段、不可然事登は存候へも、此方ゟ御留申候而ハ、對州之もの越い登ひ候。私心ニ候哉との御疑可有之候ゆへ御勧申ニ而ハ無之候へとも、其段ハ御勝手次第ニ被成、此方ゟ御取次申様ニ成とも、又者御馳走方江後頼被成て成りとも可被成候と御返答被成候ゆへ、押而直訴被致候事も難成、夫より折渡り落着、永々流罪之約條相究り委細ハ信使記録ニ有之候。其節、通詞之内より一人申候ハ、先年、白水源七朝鮮江被指渡候事、是程ニ無之候而も相済申事ニ候を、重キ御取扱ニ候ハ朝鮮乃事情う登く被成座候ゆへニ候と、存候所ニ只今ニ成り存候へハ、其節左様ニ被成不被置候而ハ此度飛しと動キ申さぬやうに罷成り候ゆへ、今日丹至り奉感心候と申堂るもの有之候。是も時勢と辯江不申以川とても押付置候へハ相済候とのミ存候ゆへ之事ニ而、今以得と落着不申候人ハ心服無之事ニ候。とかく義理を正し不申押付置候而相春み候と存候者後來之害越招キ可申事ニ候。

（三十六）或裁判江朴僉知申候者裁判之儀者、日本人と者申奈可ら常ニ朝鮮より扶助致し被置候ゆへ、別而朝鮮之事越大切ニ被存苦ニ候處、其儀無之候と天朝廷方不平ニ被存候と咄候ゆへ、裁判耳扶助有之登申ハ如何様之事ニ候哉登相尋候得者、年々代官方江木綿何束宛渡し事知り不被申哉登笑らひ申堂るよしニ候。如何様以前者裁判江請取候處、以川之時分ゟ之事ニ候哉、代官方江請取上之御所務ニ成り、其訳知多るもの無之ゆへニ候。満多或僉官是も朴僉知ニ申候者、此以前者僉官毎ニ禮下程と申事有之候所、唯今者別下程斗ニ而禮下程無之候。古例之通耳被致事ニ候登申候へ者、朴僉知申候者、夫者了簡違ひニ候。此以前朝鮮人より別下程越致し候へハ、其返礼登し天禮下程登以ふ事を以堂し候所、其後相止候。今乃引判事ニ銀ヲ賜り候ハ禮下程之かわりニ候登答へ申多るよしニ候。此外ニ茂只今之僉官中請取候麹米と申もの、以前者無之候處、御送使御借被成候時、何送使之麹米ニ候登申、代官方江持來候越代官方之海東ニも麹米と申事無之候へ

とも、扨者請取り之まへの物登相聞へ候と申、夫より申掛請取候而、最早三十年來之常例ニ成り候。是者役人とも、能存知請取候とも、其身之利益ニ致し置たる事登相聞へ、惣体朝鮮乃事者年越歴候ニ付、古式を取失ひ候事有之段、自然之理ニ候ゆへ、朝鮮之事越取扱候人者随分慥ニ記置可申事ニ候。

（三十七）朴僉知事、其節朴同知、安同知同然耳事越成シ、御用ニ立候と申ものニ而訳官中之三傑と申所ニ朴同知事者日本人こそりて譽有之候。元来、朴同知者訳官中殊之外、崇敬致し候人ニ而、わ可起訳官奈と者猥り丹咄しも致し申さぬ人品ニ而有之多るよしニ候。惣体訳官之善悪を見申ニ者　彼国之人の敬ひ憚り候人者行義端直乃人登知り、彼國之志たしみちか川起候者　性質温柔の飛とと知り、彼人之向背を以其人之高下越定可申御事ニ而、是その大要たる邊く候。日本人之議論斗ニ者信用致しかたく候。

（三十八）送使僉官五日次（オイリ）請取候節、鱈青魚之類一枚不足以堂し候而も、役人とも禮房戸房と相争ひ、見苦敷事も有之候。惣体他方江使者ニ参り候との先より仕形宜候へハ丁寧、成事と存し先〻仕形不宜候へ者、疎末成事と存、夫のミ爾て相止ミ此方〻兎や角可申道理者無之事勿論ニ候へ者、朝鮮之事も左之通有之度事候へとも、朝鮮之風儀下々之者とも別而廉恥之心うすく利を貪り、馳走乃一事ニ而も朝鮮方東來之心爾者、別事無之候所ニ、中間ニ而其数を減し、其品を阿らく致し候事ニ候ゆへ、此方より何登も不申候ハゝ行ゝハ敢々爾成り可申との恐も有之。其節ニ成り候て者、何分之違却可有之茂難斗候ゆへ、役人ともより右之ことく古式を婦満へ相争ひ候も志可登不仕事奈可ら却而満ゝ奈流筋も有之候間、其内甚ク候儀者被禁、其他者先唯今末て之仕來ニ被成置候も可然と存候。日本人之覚へ違ニ而昔者ヶ様ニ無之侯、段々馳走之品越悪敷致し候登口ゝニ申、弥左様ニ候哉否之儀、何ヲ以考可申様も無之。其訳不慥候へ者　彼方へ可被仰達様も無之候ニ付、以前之儀者可被成様も無之候。向後者彼方馳走之叮嚀不丁嚀ヲ以隣交之成信不誠信相知レ、異邦之事情を察し候者一ツ之助ニ候間、送使耳僉官之記録ニ膳部之次第越も委細ニ書付候様ニと之事ニ而、宝永二年以来、朝鮮江罷渡し候人銘ゝ記録仕立、指上侯様ニ被仰付候。此儀以前ニ心付無之人ハ無用之事越被仰付置候様ニ存候事ニ候ゆへ、此趣書付置候事ニ御座侯。但送使僉官ニ罷渡り候人記録被仰付候主意越取失ひ、他人之致し來候記録越見合、自分

之記録越相認、不時之事記し置不申候而不叶儀越却而記録ニ書載不仕候。此以前西舘ニ居候人火災ニ逢候時、東來ゟ木綿被送候。是等者非常之事ニ而記録不申候而不叶事ニ御座侯所、千規無之候とて書付置不申候ゆへ、追而記録ニ書入候様ニ登被仰付候。ヶ様之儀、行々可有之候間、送使僉官帰國之節、崇信廳之内一人記録吟味之義被仰付置、若記し可申事越記ゟ置不申候ハゝ、追而書入候様ニ被仰付可燃候。

（三十九）朝鮮丸升之入、三升五合と御勘定所之算用別ニ相極り居り候。是者其節之御支配久遠を被兼候結構成御了簡と奉存候。此後御為登号し眼前之微益越見、万一実数之通算用相立候様ニと被仰付候ハゝ誠ニ大害越招キ、是又落着御為ニ罷成間敷候間、若も左様之所見申上侯人有之候ハゝ急度御叱り責可被成事ニ候。尤此趣之儀者先年被仰付候而、斛一件記録之跋文ニも書載仕置候。唯今館内ニ而諸僉官を初メ皆々朝鮮之丸升を用ひ候様ニ成り候者、三升五合越一丸登申候者六十年以来御勘定所之算用前にて彼方丸升之実数ニ而無之と申儀、人ゝ存不申。元來朝鮮之丸升者京ます三升五合ニ相當り候と覚居、多く盤朝鮮人より何品ニ而も請取候節不案内成者ハ一丸登申候を京升丹て貳升五合者かり請取候様ニ有之。如可敷候間、金物者御国ゟ被遣、丸升者、春日亀竹右衛門江被仰付、新規ニ出来致し、東來火印有之候丸升を写し、向後盤京升を相止メ右之丸升を以、館内ふり取仕候様被仰付可然者申上、其通ニ相成らる事ニ候。竹右衛門江被仰付候、丸升新規ニ出来致し候訳者、兎角一斛之外京弐升三合請取候事、彼方之人加升と申燭ゟ候ゆへ一度者や加満し起事可有之候。其節者丸升ニ而十五杯量り請取可申と申候外無之候所、古來彼方より火印致ゟ來候代官方之丸升古ク損候間、任譯江申段、新規ニ拵へ候様ニとの事ニ付、竹右衛門申段候へハ存之外、容易ニ出来致し候ゆへ、後證の為ニ候間、古キ丸升ヲも太切耳致し代官方之蔵ニ入置候様ニと被仰付多る事ニ候。

（四十）延享之節者、東來は釜山揃被罷出候儀、古来より禮式ニ候處、封進宴席者粛拝有之事ニ候ゆへ、東來ハ釜山揃不被申事者無之候へとも、茶禮上船宴ハ近来やゝとも致し候へハ釜山壹人ニ而相済候様ト無キ、またハ下行ニ候へハ勝手ニ成り候登存、賤キ所見少し之利益ニ心掛、下行ニ而相済候様ニ致し候。ヶ様ニ候而者後來ニ成り候てハ東來蔘無之様ニ罷成候而可有之候。毎度被加點検東來出

蓼有之様ニ僉官中禮式を相争ひ可申旨被仰付、不得己宴享無之候節者、拝床ニ而相済、下行ニ而請被候事相止候様ニ登御下知可被成事ニ候。捷解新語を見申候へハ、古舘之時之事登相見へ宴享之節東釜ハ禮式之通宴席被罷出候所ニ其節正官病氣ニ托し宴席ニ罷出間敷ト申候ゆへ、訳官とも色ゝと説諭し候言葉相見へ居申候。其節迄者何成とも朝鮮人江無理越申掛候越手柄之様ニ覚たる風儀ニ候ゆへ、如何様左様之事も可有之と存候。左候へハ近來東來出参不被致候様ニ成とも本者此方より付ヶ申堂る癖登存候。此外ニ茂不宜事越仕出し、此方より付ヶ申たる癖数多有之様ニ相見へ氣毒成事共ニ御座候。

（四十一）僉官之名代を遣候事、此已前一旦被禁候段、承及候所、近年者飛ゝ登名代之儀、相願被指許候。ヶ様之義も御国者一定之御定法無之、氣毒成事ニ御座候。

（四十二）周急又者救災と申候而、彼方ゟ米越被贈、書簡之文句者彼方より心付候事之様ニも相見候とも、実者此方ゟ内意越被仰然、其通ニ成堂る事ニ而、憐を異国爾御乞被成候儀、満古と耳可恥之事ニ御座候。三十年來者ヶ様之儀少し茂無之候。向後弥無之様ニ有之度事ニ候。

（四十三）朝鮮を禮儀之邦奈り登、唐より申候者、外之夷狄者やゝとも致し候へハ唐ニ叛申候所、申候所、朝鮮者代々藩王之格越失ひ不被申、事（ツカフル）レ大ニ禮義正ク候との事之禮義乃邦登申堂る事ニ而、事之禮義者かなひ多る邦登申訳ハ無之候。然ル所ニ朝鮮人之壁ニ唾し、人の前ニ而溺器を用ひ候類を見候而、禮義之邦ニ不似合仕形ニ候と申者禮義乃邦登申本語越了簡不付言葉ニ而候。勿論朝鮮者古式を考へ中華之禮法を取行ひ候事、外之夷狄ニ者満さり候ゆへ、日本人の曽而心付無之事のミ多所、文盲奈る人者おかし起事之様ニ存候。誠耳可恥之事ニ候。ヶ様之處、心越可用事ニ御座候。

（四十四）御買米之儀、三十年以前より弐拾ヶ年程之間、未収ニ万俵余ニ及ひ埒明不申。其間ニ代官ニより未収を能取立候登御座候而御褒美越蒙り候も有之。又未収取立果敢被不申候とて首尾不宜も有之候へとも兎角未収之数減し不申候ゆへ、未収本前の差別奈く正月ゟ極月迄館内ニ入來候数ヲ十ヶ年之間一ヶ年ニ何程ツゝニ候哉。考見候様ニ登御勘定所江被仰時御吟味有之候処、十ヶ年之間、以川之年ニ而も大形一万六千俵之内ニ出入候得とも壱万六千俵ゟ上ニ立出候事者一

年も無之。左候へハ未収と存し請取候へとも本前を夫連たけ減し、本前登存、受取候へハ未収者名付候。米夫たけ不入來、彼方ニハ以川とても壹万六千俵を以、或者未収登名付持來り、或者本前と申、持來候事ニ候を此方ニ者其心付無之、朝鮮人乃侮弄（アナトリ）を請ヶ朝三暮四之内ニ而年越暮し多るニ而候。御商賣之方ニも此心持必者可有之事ニ候。元來右三十年以前ゟより御買米耳未収之出來候訳者、去ル丁丑年只今より三十三年以前、朝鮮國大飢饉ニ候ゆへ御買米越相止メ昔乃ことく木綿を入候様ニと都ゟ指圖有之、各館より木綿を東來江納候ニ付、木綿を入可申と之事ニ候へとも、日本人請取可申様無之、其訳都へ相達、翌戊寅ノ年より前ゝ之通り米越入、前年丁丑之分も米ニ而入候様ニ登指圖有之候ニ付、丁丑年各官ゟ入來候木綿、東來庫ニ有之候を、其後京商安錫微と申者、引請、米ニ致シ舘ニ入候様ニと東來ゟ被申付候所、安錫微方にて不埒ニ成り候より丁丑一ヶ年分入來可申米無之、夫ゟ段ゝ未収ニ成りたる事ニ候。右丁丑年飢饉ニ付、木綿を各官より納メさせら連候より致、違却未収ニ成り候と之儀者其砌朴僉知日本人ニ咄シ申堂る事ニ候へとも朝鮮人之申分ニ候ゆへ、弥実事ニ候哉否登申人ゝ疑候事ニ御座候得とも、三十年彼国之書キ物ニ相見へ、前後之様子を以考見候へハ、朴僉知申分成程実事ニ而朝鮮人之申候事、元来虚偽多ノ候へとも其人其事勢ヲ以能ゝ察し不申候ハゝ必春真実成事越虚偽登心得、虚偽なる事を真実登心得申候事可有之候。此事切要なる事ニ候。三十年以前ゟ之未収者、滝六郎右衛門裁判之時、東來江直ニ申達、一旦者皆済有之候所、近来ハ又ゝ未収致出来候。心越可用事ニ候。（四十五）木綿四百束之公作米壹万六千俵ニ成り候。其古、看品之代りニ入來候千百束之木綿、皆ゝ八升木長サ四十尺有之候を入來候所、其後段ゝ木綿悪敷成り五升木長三十五尺有之候を入來候ニ付、點退登申候而、是越撰除ヶ請取不申、雑事も争ひ論相止ミ不申、彼方甚難儀ニ存、天啓甲子時、木花不出来來耳候而、宜キ木綿才覚難成候間、何登そ五升木三十五尺有之候越代官方江請取、重而木花宜ク候節、前ゝ之通之木綿相渡候様ニ彼成彼下候へ者　書簡ヲ以懇望彼致候事も有之候。折節千百束余之内ヲ米ニ換可申との相談始り、此分米ニ換候へハ残りハ五升米三十尺有之候越渡しても懇望致點退候事も無之、便利なる事ニ候登彼存、悦候而彼指許堂る勢登相見へ申候。其砌まて者　乱後之餘威有之、日本人乃勢強く彼国之恐レ茂甚キ時分ニ候ゆへ、日本人之右木綿善悪之事ニ付目越

以からし、色越阿かめ大聲を阿希、訳官共を責付候事越彼国之書物ニ大肆咆哮と書付有之候。咆哮と者、虎之本由類事ニ而、此字越日本人乃怒り候体を表し候畜生ニ譬へ候言葉ニ而わるクロ爾者候得とも其時迄者日本人者虎のことく恐し起もの登彼国之人心得居候段、此文字ニ而相知居申候。ヶ様之勢ニ候ゆへ四百束之木綿ニ代り、悪木請取渡し何之屋か満し起事も無之候越悦彼申筈之事ニ候。夫ゟ最早六十八九年相立チ、今ニ而者乱後之餘威も無之、日本人者年々柔弱ニなり彼国之恐ハ年ゝ薄ク、其上二三十年以来者五升木三十五尺之内ニ價布同然之木綿入來ニ而も此已前咆哮致し候模様も無之、少しハ相争ひ候而も落着ハ請取置候様ニ有之候。彼國只今之了簡ニ者公作米越相止メ、千百束餘之木綿之なし五升木三十五尺之木綿ニ而相済度と彼存筈之事ニ候。殊ニ此方より被遣候看品之内、銅・蝋・胡椒・丹木之類、国家之経用ニ何之益も無之、其價登して違ひハ私貿易之直段ゟ者十倍ニ而、朝鮮之大なる損ニ候と、彼国之書物ニ書付有之候へハ元来看品をも止メ申度筈之事ニ候所、増而木綿を米ニ換へ候事と猶ゝ氣毒ニ彼存筈之事ニ候ゆへ、兎角一度者此儀爾付、屋か満し起事出來可致哉と、後來を者かり候へハ寒心不少事ニ候。是迄者年限相満候所、裁判を以御乞彼成候へハ、最初者米も入候事成不申との返答ニ而、其後者又五年と年限を立彼指許、米も相止可申と最初彼申ハ、口くせ乃やふニ相見へ候得とも実正止メ申度登彼存候へとも先者訳官とも中間登取扱候而無別条連續以堂し候事登相見へ申候。此後訳官中取扱候心入無之無分別人有之候か。朝廷方江是非相止メ可申と議論を立候。強仰之人有之者無心元事ニ候ゆへ、朝鮮幹事之人者常ゝ心ニ掛可申事ニ候。

（四十六）御買米之年限分明ニ裁判を以御乞候ハ白水杢兵衛裁判ニ彼仰付罷渡り候時より始り候。最初御買米始り候時ゟ段ゝ年限有之候事不存人がちニ候へとも、成程、此方古キ書物之内ニ相見へ候、毎度年限有之たるニまがひ無之候。殊ニ杢兵衛彼指渡候節者　猶ゝ年限なし登者難彼仰付訳有之、委細御実録ニ相見へ候ゆへ、略之候。

（四十七）御国船、左右道江渡漂流候時、古來彼地之馳走何程登定り多る事無之、問情ニ参り候別差差圖ニ而見合相渡多寡有之候所、訳官中願ニ而別差問情ニ参り候事相止ミ候ゆへ、水夫ともより馳走之事中掛候時、其所之役人指圖を請可申人無之、水夫とも次第ニ相渡候ニ付、段ゝ申掛二三年後ニ者大分ニ成り其旨任訳

ゟ度ゝ館守江相訴候所、折節味木弥三郎罷渡り、致下乗候時、水夫とも馳走之事ヲ申掛、心ニ叶ひ不申候とて萬戸を棒越以たゝ起候ゆへ、彼方軍官とも指揃ひ水夫とも越致、打擲　其内ニ者半死半生ニ成り多るものも有之候。其砌杉村采女参判使ニ而彼相渡右之次第彼聞届任訳舘守談ヲ以、漂流馳走之格式相定り一冊砲船頭江彼成御渡、向後右之外、請取不申候様ニと彼仰付たる事ニ候。右二三年之間者致漂流候得者、馳走を過分ニ取候益有之候ニ付、年中一二艘なくて者直ニ乗取候船無之、盡ク態と致漂流候。右之馳走水夫のミ請取候ニ而も無之、一船ニ乗り候侍中迄も意外之米を大分ニ所務致し候ゆへ誰有之急度申上候者も無之、ヶ様ニ者有之間敷事ニ候と二三年之間沙汰者かりニ而相済、参判渡海之時、相改り候。此後若又猥りニ漂流船多ヶ成り候ハゝ、上ゟ御氣越彼附、其弊端之所由出を御吟味被成、早速御處置可被成事ニ候。

（四十八）日本人漂流有之候時、舘主多太浦又牛岩浦江彼罷越候事、彼岸ニ舘内之人古舘江参り候事、遠見嶽江日本人登り候事、ヶ様之類、朝鮮人不好事ニ候へハ日本人之足をく飛り候様ニ成候而者如何ニ候ゆへ、以川迄も古式之通有度事ニ候。且又閑曠之地物カへニ致し彼方江取戻シ度との義、やゝとも春連ハ訳官とも申事ニ候。是又決而彼指許間敷事ニ候。其訳御実録ニ有之候ゆへ、略之候。

（四十九）朝鮮人乃嫌ひ申事越構ひ不申、日本人之不埒を不相改候而者　落着日本人之難儀ニ成り候事有之候。ヶ様之儀も心得居可申事ニ候。彼方ゟハ交奸之儀、深く彼禁候所、舘内之もの其法を守り不申候ニ付、最初舘近邊ニ有之候百姓家を悉ク取拂ニ、一ツ屋ニ遷し、其呼崎之石垣不堅固候所ゟ、女越呼入候段、相知レ彼方より石垣を築可申とて俵主税舘主之時、人夫多勢ニ而、石を運ひ候所、折節参判使在留之時ニ而無用ニ致し候様ニと下知有之候ニ付、呼崎之石垣を築候事者相止メ遥引取上方ニ石垣を築、坂の下ニ新門を立候ゟ舘内江朝鮮人、入來候事不自由ニ成り、其義、白水源七交奸之事、有之候ゟ、坂下之百姓家、悉ク取拂ひ舘内の手番ニ者不宜事のミ候。総体一時之勝を主登し、後來を不慮候者日本人之風儀、當時盤穏便ニ致し置、後來之勝を取候者朝鮮之深斗ニ而候。智慮之優劣無是非事ニ候。兼ゝ交奸之禁を厳密爾彼成候ハゝ百姓家越取拂ひ候事有之筈ニ候へとも、左無之候ゆへ、今ニ而者舘所人倫絶たる所ニ有之。舘中衰微之一端と成りたるニ候。

（五十）東來入登申す事越東來と打果し参り候事之様ニも相心得、又生て帰申さぬ事の様ニも相心得、東來入り致候而者、是非其ノ事之埒を明、不申候而ハ不叶事之様ニも相心得候。是ハ了簡違ひニ而候。事之品ニより延享之席ニ参言致し候分ニ而ハ委細ニ難申盡、訳官を以申遣候而者意味難相違候間、兎角東來江罷越、面上ニ委細可申入候者申ス御用之儀、必ハ可有之事ニ候。其ノ節ハ兼而届置、來入可致事ニ而日本向を以申候得者、田代之役人柳川又ハ久留米ニ罷越、彼方之役人ニ對談致し候同然之事候。時左候得ハ面談之上其事之埒明候事ニ而候。東來さへ参り候得ハ何事ニ而も相済候儀と心得可申様も無之。猥ニ打果可申様無之候。其内境ヲ犯し彼方江参候事ハ、元来容易ニハ致ス間敷事ニ候。右可及面談程之事ニ而も無之所ニ東來江参候事ハ訳官共難義可り候事と存、訳官江痛手ヲ當、其事越埒明させ可申之斗策ニ而東來入可致なとゝ申候ハ、可●ふ了簡候。

（五十一）舘内江朝鮮人盗ニ入候時、急度死罪ニト仰付候様ニと毎度舘守ゟ任訳江申渡シ候而も其通ニ不被行、落着いひ志らけニ成候事有之候。元来盗ニも軽重有之候処、其差、別無之、是非死罪ニ彼行候様ニト申候ハ此方之無理ニ而御座候。交奸之もの、彼方ニ而者彼死罪候得とも、此方ニ而者、永ゝ流罪と仰時候同然之事ニ而、国々之法式有之事ニ候ゆへ、向後盗を捕候ハゝ縄下ニ致し訳官江相渡盗之軽重爾應し、彼國國法之通被致處置候様ニと●舘守可被申事ニ御座候。朝鮮國之内ニ盗致候者、其罪を糺し、舘内ニ而致し候者ハ指許候と申事決而無之事ニ而、万一訳官共方江方ニ而私を致し可申ハ難斗候とも東來以上之人の耳ニ入候而ハ其侭ニ而可被指置哉との氣遣ハ曾而無之事ニ而候。

（五十二）東五郎廿二歳之時、御奉公ニ彼召出、江戸ニ罷在候所、之在勤之面咄彼申候ハ朝鮮人程、鈍なる者無之候。炭唐人と申、炭持來候者有之候所、若も炭を不持來候得ハ其手ニ印判致し、明日持來候得共、言付候得ハ、翌日者必炭を持來り右之印判を除ヶくれ候様ニと申候。大勢之事　候へハとれと申覚も無之事ニ而、殊ニ其印判を手前に而洗落候而も相済事ニ候所、必ハヶ様ニ致しおかしき事ニ候と者申候ゆへ、東五郎存候ハ鈍なる爾てハ有之満しく候。定る爾今、乱後之餘威強キゆへニ而可有之と存居候處、其後三十六才之時、朝鮮言葉を稽古として彼地へ罷渡り候所、或日町代官之内、前ゝ之仕形を覚居候もの有之、炭唐人之炭を不持來候を叱り、上着之袖越縄ニ而くゝり可申と致之ハ右之朝鮮

人殊外、立腹致し、傍ニ金別将と申候訓導候方之書手居申候所、是又目越怒ラシ我國之人越辱め候ハい可成事ニ候哉と散ゝニ申候ゆへ町代官愧縮致し相止メ候。此事ニ付候而も僅十四五年之内ニ風儀ヶ様ニ変し候。大概、壬辰之乱後、万松院様一代より光雲院様御幼年迄ハ怖レ之ヲたるニ而候。光雲院様中頃より天龍院様御初年まてハ避レ之たるニ而候。天龍院様中比ゟ已後者狃らるゝニ而候。怖之避之候時者彼方下タ手二成り、狃レ之ニ候時強きハ上ハ手ニ成り弱はハ下手ニ成候筈之事ニ候。天龍院様御代中比者まだの乗之凌之と申候而、威柄彼方ニ移り此方ハ却而卑屈ニ致し候様ニ成可申時勢ニ候ゆへ、以正大為心理義ヲ為レ務ノ前後を斗處置可致事ニ候。不畏レ強ニ御禦ニヲ不レ侮ヲ鰥寡一剛モ亦不レ吐柔モト亦不レ茹ト申、世ニ處するの道越申たる言葉ニ候得共、朝鮮と御隣交之際ニハ此心得可為要候。

（五十三）古舘最初之時分、訳官共ニ對し東來は裁判同然之人ニ候と申たる者有之候由、是ハ不敬とも何申又ハ文盲成とも何申候。惣体其節、乱後引移り之事ニ候故、東來之事を舘守なとへ被仰遣候、御年寄中之書状控候候た満さか残り居候越見候而も多くハ東來と相恭候様ニ相見訳官ともハ御出入之町人之如キ御挨拶登相見、甚尊大なる事ニ候。是ハ過キ申たるニて候。其後竹島之事起り候而朝鮮之存入何分ニ可有之候哉。隣交諸事異変ハ有之間敷哉と人ゝ危懼之心越懐キ候より東來ヲ殊外あ可免候而、能ゝ承候得ハ、東來ハ三品之人ニ候ゆへ殿様ゟ高階ニ候へハ慮外らしく可申事ニ無之候とて、半主人之事越申様ニ申たる人も有之候。御國者土地人民を御代ゝ被相伝候。候伯之御身ニ候へハ東來比較致へキ候様無之候と申所ニ心付無之候段、是非ニ不及ニ而候。惣体義を以事越制シ不申候得ハ、彼方驕慢ニ候得ハ其勢越恐候而卑屈致し、彼方卑屈致し候得ハ、其弱キを侮り此方驕慢ニ成リ候事人情之常弊ニ候ゆへ、彼方ハ如何様ニ変し候共　此方ハ其権度を乱シ不申候様ニ有之度事ニ御座候。韓同知破船致し候渡時、偏裁判不念ゆへニ付、裁判事屹と可被仰付事ニ候と訳官とも申候て情意叵測模様ニ候故、兎角重キ御叱リ無之候而　其朝鮮之思入不宜と舘内ゟも申來　御国ニ而も一廉ニ被仰付可燃事ニ候と申候而媚を異邦ニ取リ候所見多く有之候所、左傳之内ニ有之候。寧以レ国斃ルトモ不レ可レ従也と申語越引、此方ゟ被仰遣候ハ海上之儀ハ風潮ニより、父子之間ニ而も咫尺越隔、互ニ相救申事成申さぬものニ候得ハ、韓同知破船致し候事、裁判之存たる事ニ而無之候。若も裁判越科ニ行不申候ハゝ隣交可断絶と有之

候而も、左伝之本語のことく決而御許容不被成事ニ候間、此度訳官江急度被申聞様ニと被仰遣候。其語ハ浮言も段ゝ相止候。諸事此心得ニ有之度事ニ御座候。兎角以義自守候時ハ猥ニ躁惑萎縮致し候事ハ無之筈ニ候。

（五十四）誠信之交と申事、人ゝ申事に候得とも多者、字義を分明ニ不仕事有之候。誠信と申ハ実意と申事ニ而、互ニ不欺不争真実を以交り候越誠信とハ申候。朝鮮と誠の誠信の交越可被取行と思召候ニ成候而ハ送使をも悉く御辞退被成、少も彼國之造作ニ御成り不被成候時なくてハまことの誠信とハ難申、其訳ハ彼の國之書籍越見申得ハ底意之有所相知申候。志可し此段容易ニ成候事ニ而無之、只今まて仕來り候事ハ彼国ゟも容易相改可申とも被申間敷候間、何とそ仕來者先其通ニ被成被置、此上爾実意御取失ひ無之様ニ被成度事ニ候。日本人ハ其性獷悍難以義屈と申叔丹之文ニも相見へ候。彼国之弊竇大分ニ候得とも送使接待を初耳今無別条連續致候ハ獷悍之性を被恐候より事起りたる爾て御座候。乱後之餘威今ニ而ハ甚薄ク成候得者、此後ハ對州之人従前武義之習ひを失ひ、惰慢之心ニ成候ハゝ必ハ前ニ申候通、何某之木刀ト申如く成行可申ゆへ、朝鮮幹事之人は其心得肝要之事ニ御座候。とかく朝鮮之事情を精ニ知り不申候而ハ、事ニ臨　何之了簡可仕様も無之、浮言雑説ハいか程有之候而も益無之候故、経国大典、攻事撮要之書、并阿比留惣兵衛仕立候善隣通交、松浦儀右衛門仕立候通交大記及分類記事大綱を常ニ致熟纜前後越考ヘ可致處置事ニ候。

享保十三年戊申十二月廿日

雨森東五郎　　撰

３．あとがき

本稿は「まえがき」でも記述したごとく、本書は18世紀初期の対朝鮮外交の指針書というべきものであるが、当時、江戸幕府から対朝鮮外交の政治、経済、交易、文化交流、異文化理解を委ねられ、最前線で対朝鮮との交渉に活躍した雨森芳洲個人の見識としてのみならず、当時の対朝鮮との総合的理解に今日的価値を有しているところに意味がある。日韓・朝両国の交渉と交流は地勢的に

も政治的にも唇歯輔車の関係から永遠に脱する事はできない。ゆえに双方は宿命的な関係を有していると言える。温故知新。今後、ますます遠い関係から近くて近い関係に移行しつつ、緊密な相互作用が増進していくであろう。特に、北朝鮮との関係は今後の東アジアの平和と安全にとって国際的焦眉の重要課題である。その意味で『交隣提醒』の内容は今後の相互理解において示唆するものが何であるかを訴えて余りあるといえよう。本稿を終えるに当たり顧みると、各章ごとに今日的問題とからめて分析したかったが、本稿の主旨とは合致しないことを認識した。この課題は他日に委ねたく思う。

なお、僭越ながら昨今(H20)10月付で、学術文献刊行会(有限会社朋文出版)より拙論“雨森芳洲著『交隣提醒』について——その1(大阪経済法科大学論集第90号)”が平成十八年版国文学文献目録に掲載されたことの知らせを受けた。収録論文番号5-224として2009年4月作成である。

この『国文学年次論文集』の価値については詳らかに知らないが、論文集の推薦者には東京大学、京都大学、早稲田大学、九州大学、名古屋大学、国学院大学の各名誉教授の芳名が連記されている。同学術文献刊行会が年間の「国文学」研究動向を把握できるようにとの趣旨である由、拙論が学界で広く認知、紹介されたことを喜びとしたい。[2008年10月脱稿]

[参考文献]

1)『訳注「交隣提醒」』(国学資料院、韓日関係史学会編、2001年2月)
2)呉　滿著「雨森芳洲著『交隣提醒』について —— その1(『大阪経済法科大学論集』第90号、大阪経済法科大学経法学会、2006年2月)
3)呉　滿著「雨森芳洲著『交隣提醒』(韓国立国史編纂委員会所蔵本)について —— その2 (『大阪経済法科大学論集』第92号、大阪経済法科大学経法学会、2007年2月)
4)呉　滿著「雨森芳洲著『交隣提醒』(現代語釈) —— その3 (『大阪経済法科大学論集』第94号、大阪経済法科大学経法学会、2008年3月)